

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名

ほほえみ

日付 平成 20年 12月 2日
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

母体法人の名称“ゼロズ”は、「ゼロからの出発、2000年開業のゼロの複数にちなんで、常に原点を忘れないようにという気持ちを持ち続ける」という意味だと聞いた。「今日やった事はプロローグ(序章)(明日からが本編)」が代表のモットーである。今までの実績を常に評価して、一つひとつがより良い方向に育んでいくよう努力していくという気持ちがよく判る。利用者は高齢化が進み、認知症の症状も重度化していく事は残念ながら免れる事は出来ない。利用者の状態が変化していく中でも、その人にとっての幸せや生き甲斐は何をすれば良いのか、何を感じて貰ったら良いのか等、一人ひとりの気持ちを察知していく職員の日々新鮮な心が必要となっていく。

このホームの特長の一つは、職員が管理者以下設立当初から安定している事だろう。代表のホーム運営の方針を理解し、今年は具体的に何をしようかと計画目標をたて、毎月のミーティングでも話し合い、常にケアの原点に立ち、職員一人ひとりが自分の役割を確認しているようだ。「職員一人ひとりに仕事を任せて貰えている。各人が責任を持って、互いに協力し合いながら進めている」「利用者の力も借りてケアをしている」「利用者の人生を考えて生活の質の向上を考え、相談・工夫しているので新鮮味がある」等の気持ちが管理者からも聞かれた。又、職員の勤務体制は職員同士が協力し合って、できるだけ希望に添って休日が取れるようにしている。また、有給休暇も調整してとるようにしている。一日の勤務もきっちりとした時間帯で仕事出来るという配慮が、職員が安定して長続きする背景だろうと思う。

平成20年度の目標は「一人ひとりの可能性をもっと引き出す取り組み、一人ひとりが主役になれる生活の場面を通して充実感と安心感を感じられる生活のサポート」を掲げている。利用者にも無理なく関心を持って貰える工夫によって、このホームでの生活が出来る環境は一日の中でも色々確認する事が出来た。ホームでの生活がユニットの構成に関係なく、18人の利用者と職員全員が一つのホームとして一緒に生活し、それぞれの利用者の得意な事、好きな日課で過ごしていける幸せを追求している姿を見せて貰った。レクレーション・食事改善・ガーデニング・環境整備・管理・拘束ゼロ・地域交流推進の委員会を作り、職員が2つの委員会を担当して、日常の業務以外の側面から各分野の運営を分担して、ホームを横断的に見て考えていける運営がホームのサービス向上に繋がり、利用者や家族から「私の人生は良かった」と言って貰える気持ち良い空間作りに役立っているのだろうと感じた。

特に改善の余地があると思われる点

介護計画及び記録類はアセスメントからカンファレンスに至るプロセスの中に記録も簡便で分かり易く記述されているが、もう少し利用者にケアすべきポイントを絞って、介護する内容を具体的に且つ客観的に表現して、毎日ケアの実践結果からモニタリングした状況をはっきりして評価すると、もっと素晴らしいものになるのではないと思う。

2. 評価結果（詳細）

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：ホームの運営についての理念や方針は、当初より一貫しており、代表者の利用者・家族・地域に対する考え方もしっかりと職員に理解されている。そして職員は毎年の実行計画及び目標を立てて、ミーティングでもよく話し合い、理念は完全にホームの運営と職員の業務遂行の中に定着している。</p> <p>2、全体的に見て…：毎日ホームに来て利用者として接している代表者は、職員と互いに信頼し合い、チームワーク良く利用者の生活を支援している。「家族が大切な人を託してくれているのだから、ここに来て私の人生は良かったと利用者に満足して貰えるよう、ターミナルケアも視野に入れたプロの介護を提供したい」ホームは、常に上を目指し精進している。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：閑静な住宅地の中にあり、ゆったりとした芝生の敷地の中に洒落た洋館造りのホームはちょっと大きめの家の趣を感じる。その中で18人の利用者は職員と一緒に一つの家庭を築き、人間の動線が居心地の良い生活空間を形成している。改善すべき項目はないが、家族の意見で駐車場の整備をしたり、洗濯物干し場に屋根をつけて、一つひとつの改良を積み重ねている。</p> <p>2、全体的に見て…：ホームの建っている住宅地に住んでいる職員の子供が「これ見せてあげると学校の帰り道で捕まえたザリガニを利用者に見せにホーム中の利用者を訪ねて歩いていた。利用者も子供も生き生きとした雰囲気にもまれていた。今日は運営推進委員のメンバーも訪れて、地域の人々、家族、近所の子供も交えて色々な人々が交わり、空間の活性化が躍進していた。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人のできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：このホームのケアのあり方についての探求と実践は相当に高いレベルにあると思うが、利用者一人ひとりの介護と生活の柱は利用者とのコミュニケーションの達成感にあると考えている。利用者の状態に応じた話し方を職員間で共有出来るようにしたいと考えている。認知症ケアの高度な能力であるが、是非克服して貰いたいと思う。</p> <p>2、全体的に見て…：このホームの特長の一つに食事がある。利用者が「この食事は美味しいよ」と言っているように、このホームに入所してから、生きる意欲を失っていた人も、よく食べて体重も増えて元気になった人も多い。職員間の“なんでもノート”でも、食事や排泄に関する記述も多い。利用者に食事も楽しんで貰いたい意見や、美味しい思いで食べて貰う為の工夫や、トイレに誘導し便器で排泄して貰う為の努力目標をこのノートの中に職員間で意見交換している様子が伺えた。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
記述回答	<p>1、自主評価について…：代表者と管理者・職員の間で意思疎通はしっかり出来ており、協力し合ったケア及びサービスの質の向上に日々努力しているため、改善する項目はない。現状に満足せず、常に新鮮味を加えて、一つひとつの項目の改良をしていこうとする意欲を感じる。</p> <p>2、全体的に見て…：訪問調査の日に運営推進会議が開催され、その会議を傍聴させて貰った。地域の民生委員・近所の住民代表・家族の代表が出席され、利用者の生活の中に入って馴染んで貰った後に会議に入り、ホームの運営報告があった。家族から、ホームに入所してから、利用者の状態が改善され、ホームでの生活が安定し、信頼関係が出来た事への報告と感謝の意が発表された。このホームでは今まで7件のターミナルケアの経験があるが、ターミナルに入った人が、回復して又元気に生活している状況や人間回復できた利用者も多い。</p>		